

【特集】 遺伝看護専門看護師の活動紹介

「ゲノム医療の推進」という医療背景と遺伝看護専門看護師としての活動

鴨川 七重

東海大学医学部附属病院

1. 遺伝看護専門看護師認定時の背景

私が遺伝看護専門看護師の分野認定に向け、先生方と仲間たちと必死になって取り組んだのが2016年、そして日本看護協会の専門看護師分野として遺伝看護が認定され、翌年の2017年12月に4名の仲間と共に、日本で初めての遺伝看護専門看護師として資格を取得した。

1) 日本の医療背景

2015年オバマ前アメリカ合衆国大統領が一般教書演説において発表した“Precision Medicine Initiative”という言葉の皮切りに、個人の遺伝子情報を実際の医療に生かす「ゲノム医療」が実質的に幕を開けた。日本においても、政府はゲノム医療実現に向け、ゲノム医療に係る高い専門性を有する機関の整備と、医療従事者に対する教育・啓発を課題とし、ゲノム医療推進に向けた段階的な推進すべき対象疾患の1グループにがんを掲げて取り組んだ。

2) 東海大学医学部附属病院の状況

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、指定用件であるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスとして、毎月1回がん診療連携会議を開催し、またがん相談支援センターやがんサロンの開催など、がん患者の支援を行っている。遺伝/ゲノム医療に関しては、遺伝子診療科が2007年に開設され、開設当初からしばらくは、専用の外来の場所がなく、他診療科の外来ブースの一部を借りて外来をおこなってきたが、2017年9月より、遺伝子診療科外来の専用の場所ができ、今まで兼任のメンバーで行ってきたが、臨床遺伝専門医1名が遺伝子診療科専任となった。開設当初婦人科の医師が主体的に取

り組んでいたこともあり、遺伝カウンセリングは、周産期領域患者が大半を占めており、遺伝性腫瘍のカウンセリング数は少ない状況で、また院内の遺伝性腫瘍の拾い上げ体制も整っておらず、遺伝性腫瘍の人々のほとんどは、がんを発症してから通常のがん医療を受けている現状であった。今までは遺伝性のスクリーニングを目的に行われてきた遺伝学的検査だが、私が遺伝看護専門看護師の資格を取得した頃から、PARP阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤など治療薬の効果予測のために日常診療の中で実施されるようになった。政府も遺伝/ゲノム医療の推進の方向で動いており、遺伝看護専門看護師として取り組むべき重要な課題を、地域がん診療連携拠点病院である当院の『遺伝/ゲノム医療、看護の体制整備と人材育成』と掲げ取り組んで来た。

2. 遺伝看護専門看護師としての取り組み

1) 遺伝性腫瘍診療体制の整備【調整】

遺伝子診療科の医師と協働し、乳腺外科、消化器外科、婦人科の医師、看護師などへ勉強会と説明会を実施。「遺伝性腫瘍（HBOC・リンチ症候群）の拾い上げフロー」「乳がんのコンパニオン診断（BRACAnalysis）のフロー」を作成し運用を開始した。遺伝子診療科を兼任する乳腺外科の医師をキーパーソンとし、BRACAnalysisのフローをブラッシュアップし体制を整えた。その後の婦人科、消化器外科内科、泌尿器科と適応拡大時には、乳腺外科の体制をモデルとし各診療科の体制整備を行った。現在はHBOCミーティングを1回/月実施し、関連する診療科が一度に集まり、PARP阻害剤のコンパニオン診断、HBOC保険診療がスムーズに提供

できるよう話し合う体制が構築できた。また副次的効果として、HBOCミーティングに参加する診療科から、遺伝性腫瘍関連で遺伝子診療科への依頼数の増加にもつながった。

2) 遺伝看護の普及・人材育成【高度実践・コンサルテーション・教育】

遺伝性疾患は多くの診療科が関連し、何より現場の看護師の力がとても重要となってくる。遺伝看護とは特別な看護ではなく、日々臨床で実践している看護が遺伝看護につながっていることを、院内外の多くの看護師に知っていただき、興味・関心を持ってもらえるよう意識的に教育活動を行っている。

①院内外でのセミナーの講師

資格取得時より、当院の看護キャリア支援センター主催のオープンセミナー「遺伝看護～遺伝医療にあなたの力を～」の企画、運営、講師を継続して行っている。また病院のホールにおいて、遺伝/ゲノム医療、看護の普及に向けた患者、家族、職員に対する相談会を「実は身近な遺伝看護」というテーマで実施した。院外では日本遺伝看護学会と日本遺伝カウンセリング学会共催の遺伝看護セミナーの講師を担当し、2021年度は実行委員長として、セミナーの企画・運営に携わった。

②シンポジスト

看護系の学会だけではなく、日本臨床腫瘍学会のシンポジストとして、他職種に向け、遺伝看護の普及活動に取り組んだ。さらに強く印象に残っている経験として、東海大学の関連機関（4つの東海大学付属病院、医療短期大学、医学部看護学科）で形成

される東海大学看護研究会の第8回学術集会が「未来につなぐ、社会とつながる、人をつなげる看護～遺伝看護の先駆けとしての役割～」というテーマで開催されたことである。また「遺伝医療における看護の役割」というテーマでシンポジウムが実施され、組織として遺伝看護の重要性を理解していただいていること、また遺伝看護に対する期待を強く感じると共に、自身の責任、役割の大きさを実感し、日々の現場での役割、そして遺伝看護専門看護師として成果を出すことで、その期待に応えていきたいと思う。

③「日々臨床で実践している看護を遺伝看護として意味づける」関わり

教育活動として、セミナー講師だけではなく、コンサルテーションや日々の看護場面を通して、患者のQOLの維持・向上を目指した支援は次世代の予防行動にも影響するとともに重要な遺伝看護であることを伝え、日々の看護を遺伝看護として意味づけることを意識して実践している。

3. 最後に

専門看護師として資格を取得してから、様々なことに悩み、挑戦し続けた日々であったが、そこにはいつも遺伝看護専門看護師の仲間、そして院内外の他領域の専門看護師の仲間、遺伝看護の先生方、遺伝子診療科の医師たちの存在、助けがあった。人とのつながりを自分の強みとしてこれからも大切に、仲間たちと連携、協力しながら遺伝看護の普及、質の向上に努めていきたい。